

公益財団法人 檜の芽会 御中

## 令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日			令和 7 年 5 月 25 日	
②法人・団体名	特定非営利活動法人シェイクハンズ				
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	愛知県犬山市				
④責任者氏名	松本里美	(役職名等)	代表理事		
⑤担当者氏名	松本晃	(役職名等)	事務局長		

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R06-028	⑦助成金額	100 万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	希望が持てる中高生の学びの場づくり				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	「にじいろ寺子屋」 愛知県犬山市字浦ノ門 55-1 (楽田児童センター2 階)				

⑪活動内容とその成果の概要 (詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。)

外国ルーツや困難を抱える中・高校生に学習支援や、様々な体験ができる居場所を作った。

- ① 学習と憩いの場として/毎週 2 回、水曜日 18 時～21 時、土曜日 15 時～18 時開設。  
参加者/中学生 16 人 (内、不登校状態 2 人、発達障害 1 人)、高校生年代 6 人 (内、未  
就学 2 人)

水曜日には、学習の場を求めてやってくる中学生が多く、土曜日は、  
ギターやカードゲームを楽しみにやってくる中高生が多かったので、学習の  
部屋と趣味の部屋を分けて開催した。不登校等の生徒に、いきなり学習は  
ハードルが高く、指導者が話しかけることから始め、居場所として定期的に、  
通えるようになっていった。受験勉強に通う中学 3 年生は、現段階で 4 名全員  
が志望校に合格でき、内 1 人は、難関校と呼ばれる高校に合格ができた。

- ② 進路ガイダンスとして、大学見学。12/27、愛知淑徳大学へ  
中学生 6 人と高校生 5 人、小学生 4 人 (中高生の兄弟) が参加。引率 4 人。  
愛知淑徳大学の学生団体「アミーゴ」の案内で、構内見学と、ドリームマップ  
作りのワークショップをした。
- ◎ 参加者募集に関しては、市内 4 校の中学校でのチラシ配布を依頼。近くの公立高校  
にも、掲示板等に掲示してもらった。また、社会福祉協議会基幹センター  
からの紹介もあり、100%ではないが、ほぼ、目標の人数を集めることができた。
- ◎ 社会福祉協議会の紹介により、不登校や家庭に問題を抱える生徒などが参加したので、  
青少年センターの相談や、大学生が親身に寄り添うなどしているが、今後も引き続き、

居場所として開設を続けて、各機関と連携し、問題の解決に向けていきたい。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A × B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	1139	2	2278	2回/週 × 2時間、16人 × 8回/月全期延 1139人
高校生等	427	2	854	2回/週 × 2時間、6人 × 8回/月。全期延 427人
大学生等	72	2	144	開設2回/週 × 2時間、学習補助・体験指導員として
学習支援員等	72	2	144	2回/週 × 2時間、学習補助・体験指導員として
その他	2	3	6	学習支援補助、見守りボランティア、相談員として
合 計			3426	

⑬その他の定量的な数値（任意）

# 令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

## 奨学活動名：希望が持てる中高生の学びの場づくり

法人・団体名：NPO 法人シェイクハンズ

作成者 氏名：松本里美

### 1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

目的：2ヶ所の県営住宅が近くにある地域特性として、外国ルーツや困難を抱える子ども達が多く、それらの子ども達に対して、学習支援や体験活動を通じた居場所を作り、希望が持てる学びにつなげられることを目標とした。また、孤立しがちな立場の子には、仲間づくりの場となることも目指した。

実施内容：毎週水曜日 18時～21時 18時～19時 希望者には軽食や語らいの場、  
19時～21時 学習タイム  
毎週土曜日 15時～18時 15時～18時 学習タイム  
内 16時～16:30頃 おやつ休憩

※土曜日には、学習が手につかない生徒に対して、興味ある事ができる別室を用意した。

### 2. 実施した奨学活動の詳細



活動内容／毎週水曜日、18時～21時。主に学習の場

毎週土曜日、15時～18時。学習の場と趣味（いこい）の場

参加人数／中学生16人（内外国ルーツ10人）、高校生年代6人（内外国ルーツ6人）

周知方法／市内4校の中学校でのチラシ配布。高校1校での掲示板掲示。

当法人HPとフェイスブックで拡散

連携／犬山市教育委員会、犬山市福祉課、犬山市社会福祉協議会、犬山市青少年センター、犬山市民活動支援センター、愛知淑徳大学、名古屋経済大学、犬山市レクリエーション指導者協会、

学習支援員／延べ6人、（教員OB2名、大学生2名、会社員2名）

他、地域の方の体験時指導ボランティア2名（ギター、料理、農作業等で）

### 3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

成果としては、まず、高校受験生全員が希望校に合格出来たこと（うち一人が、難関高校に合格）不登校や家庭に事情持つ子が、定期的に場に参加でき、他の子とも日常的につながりがつくれ、たこと。一人は保護毎週居場所に参加でき、3月中旬には、保健室での学習ができるようになった。支援員とも家の事や将来のことなどを話すような関係性ができつつある。

様々な社会資源がつながり、困難を抱える子を支えていける関係性ができつつあるのも成果だが、肝心の学校の先生が連携の輪に入って来られないのが、とても残念である。今後、学校へのアプローチが課題である。また、問題を抱える家庭の子の場合、ロングスパンでの支援が望まれるので、この居場所活動が継続でき、一人ひとりにもっと寄り添える事ができるよう、強く望みます。

### 4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

- ①22名の参加者の内、外国ルーツが16名と、この地域の特徴を反映しているが、日本語教育と教科学習と両輪で、将来を考えていきたい。中2の中国の生徒が、日本語能力検定N1に合格できた事が励みで、ほぼ家にこもりがちだった友人を紹介して、一緒に通えるようになった。
- ②困難さを二重に抱えている生徒に、スタッフがしっかり傾聴してくれていて、心を開いてくれるようになって、毎週土曜日に通ってきてくれたが、ある日、得意のエレキギターを抱えて来て、みんなの前で弾いてくれるという。が、近所から苦情がくるのでは？と、一同心配したが、アンプ類がなく、ほっとした。
- ③発達障がいのある生徒がいて、水曜日の食後にいつも寝てしまうので困っていたが、食事を楽しみに休まず、毎週2回、通ってきてくれている。この生徒も次年度は、3年生になるので、ぜひ、支援を続けていきたい。

### 5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）